

消 息

宇野和夫先生をお送りするにあたって

宇野和夫先生はめでたく古希を迎えられ、早稲田大学の定めにしたがって、本年3月末日をもって退職されます。先生のご退職にあたって、学部を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

宇野先生は早稲田大学法学部をご卒業ののち、同大学大学院法学研究科修士課程に進まれ、社団法人中国研究所研究員、東海大学外国語教育センター助教授を経て、1997年4月早稲田大学商学部助教授として嘱任されました。その後、2006年教授に昇任され、24年の長きにわたって早稲田において教育と研究の時間を過ごされました。

先生の主たる研究対象は中国社会研究（治安・犯罪、都市問題）、中国法制、現代中国語など幅広く、これらに関する多くの研究論文を発表されました。また、先生が理事を務める中国研究所が毎年刊行する『中国年鑑』には編集委員として執筆協力をされています。多くの人びとが年鑑から中国の最新情報を獲得していますが、この刊行に編集委員として長くかかわってこられた先生の学識の深さや力量をうかがいすることができます。さらに、『中日辞典 新語・情報篇』（小学館、2008年）の編纂にも取り組まれ、先生の中国研究に関する成果のひとつといえます。先生のご趣味である山登りにたとえれば、大きな山の頂に立たれた感じではないでしょうか。私が親しくお付き合いをいただき、先生と同じ中国法を専門とされる小口彦太名誉教授（現在、江戸川大学学長）から、中国の文献を読まれる際、先生が編纂刊行された当該辞典を愛用されていることをお聞きしました。宇野先生の研究の背景や関心事は、中国研究の第一人者であった故安藤彦太郎名誉教授から薫陶を受けられたことと大きく関係していると考えています。

早稲田大学産業経営研究所では、ここ20年近くの間、3回にわたって中国ビジネス研究のプロジェクトが組まれました。先生はそれぞれのプロジェクトに参画され、日本企業の中国市場への進出を研究対象として現地調査などを行い、その都度論文を執筆さ

れています。経営・会計・経済などの専門領域、中国語、中国研究にかかわる多彩な先生方、助手や大学院生といった若手研究者が参加する、商学部あげてのプロジェクトは大きな成果をあげて成功裏に終えることができました。先生のご貢献が大きかったものと思います。

商学部では、中国語教育の質的向上や学生の到達目標の明確化をめざして単語統一試験を実施していますが、中国語の先生方がまとめられた『中国語基本単語帳』（改訂第4版、朝日出版社、2021年）の刊行においても多大な貢献をされました。「中国語」に加えて「専門中国語講読」の講義を担当され、総合教育科目演習（プロゼミ）では「中国の経済と社会」も開講されました。授業や演習を通じて多くの学生の指導に邁進されました。なお、宇野先生の研究・教育上の功績は小川利康先生による消息をご覧ください。

先生の研究室と私の研究室は隣同士なのですが、出校日が異なるためか、お目にかかる機会はそれほど多くなかったように思います。近くなのに遠い関係というのが率直なところですが。しかし、日中間あるいは米中間で政治問題や経済問題などの大きな変化が生じると、先生はさまざまな方法を駆使して情報を集め、最新のものをメールでお知らせくださるのが常でした。とくに、この1年ほどはコロナ禍にかかわる種々の情報をお送りいただきました。その意味ではメールを通じて近い関係だったということができません。今後、国際政治、国際経済の動向をみるうえで、中国の影響力はさらに大きくなります。長く中国の動きを観察されてきた先生に、これからも多くのことを教えていただければ幸いです。また、ご退職後の時間を使って、中国研究の著作をぜひ世に問うていただきたいと考えています。

上述のように、先生のご趣味は山登りとお聞きしていますが、日本百名山や4000m級ヨーロッパアルプスへの挑戦のようなご計画があるのではないのでしょうか（2019年夏、モンブラン、メンヒ、ユングフラウへの登頂に成功されたそうです）。学内で登山時のようなお姿の先生にお目にかかることがあります、いかに山を愛されているかがわかります。

ご退職後も日々、中国情勢の観察にあたられることと思いますが、いつまでもご健康に留意され、お元気に過ごされることを祈念いたします。先生の新稲田大学とりわけ商学部に対するご貢献に心から感謝を申し上げます。

宇野先生，長きにわたり，ありがとうございました。

早稲田大学商学部長
早稲田商学同攻会会長
横山 将義